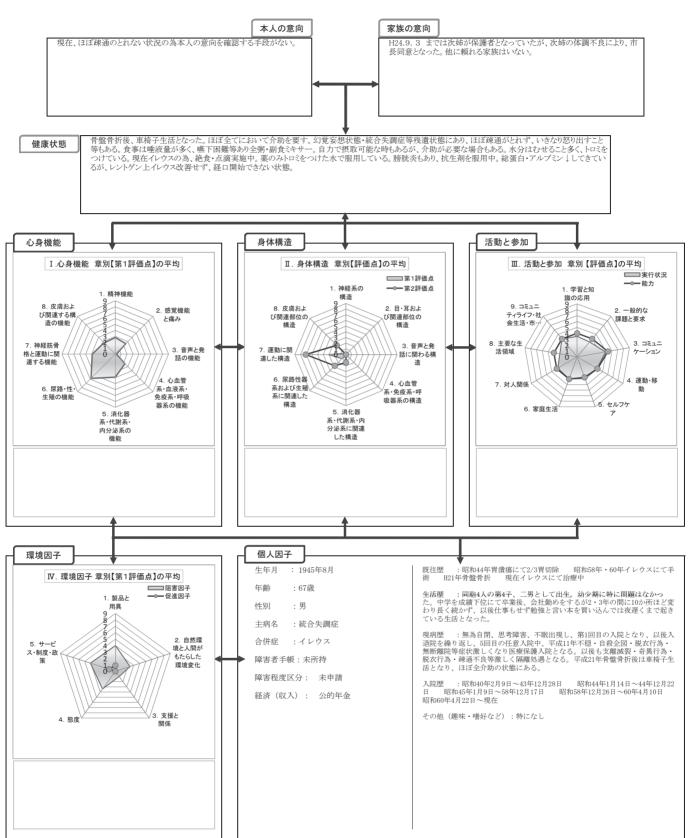
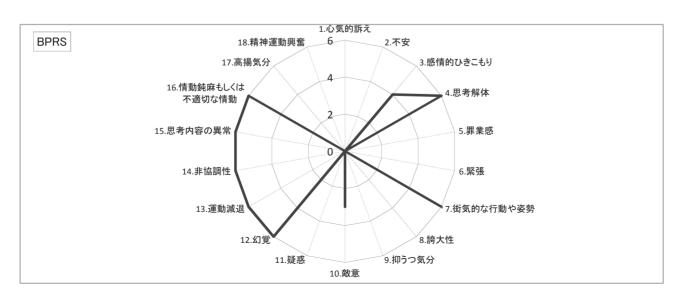
日 付 平成24年12月20日 患者ID 1244

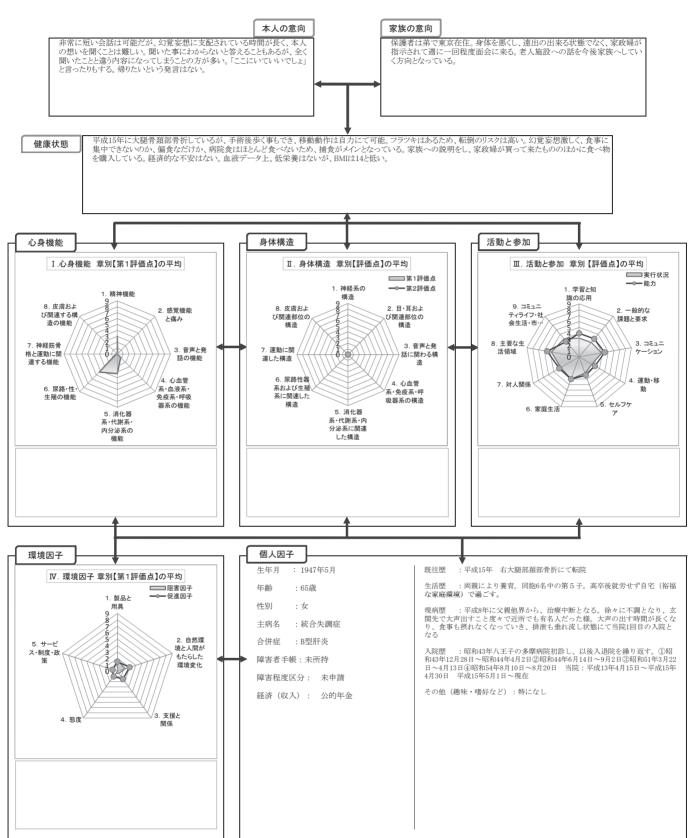


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	4: やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3:中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	6:非常に高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6:非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

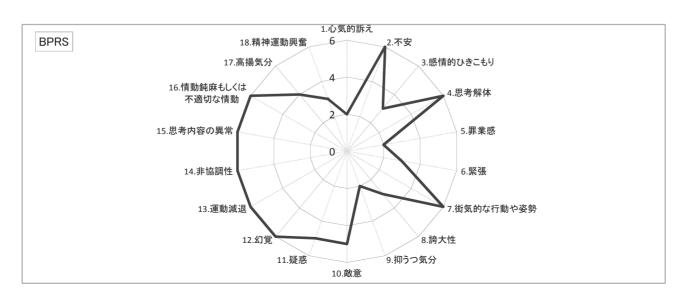


日 付 平成24年12月25日 患者ID 10902

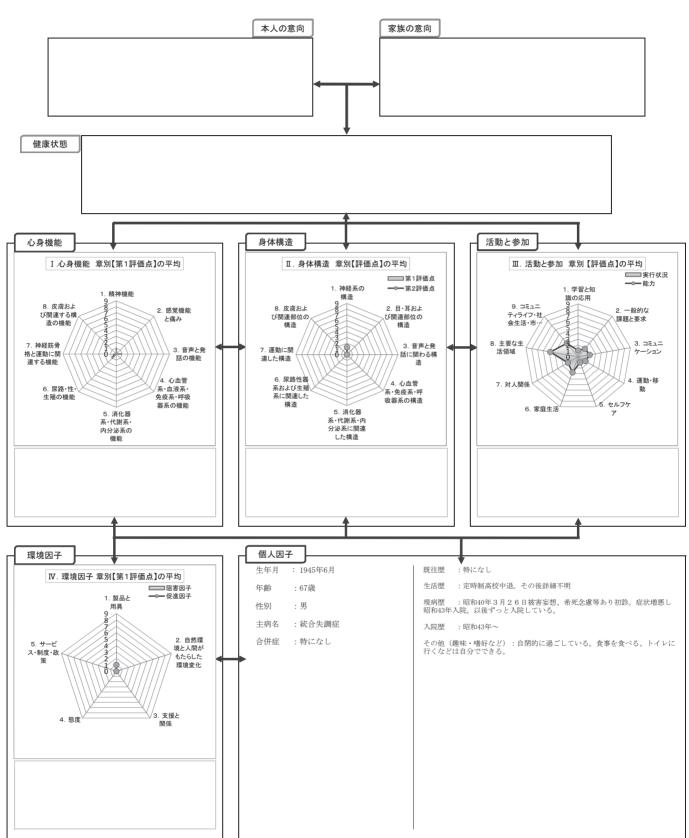


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	6:非常に高度
. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	3:中等度
l. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	2:軽度
. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
3. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3:中等度
). 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	2:軽度
0. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	5:高度
1. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	5:高度
2. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	6:非常に高度
3. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
4. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
5. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6: 非常に高度
6. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
7. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	4:やや高度
8. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3:中等度

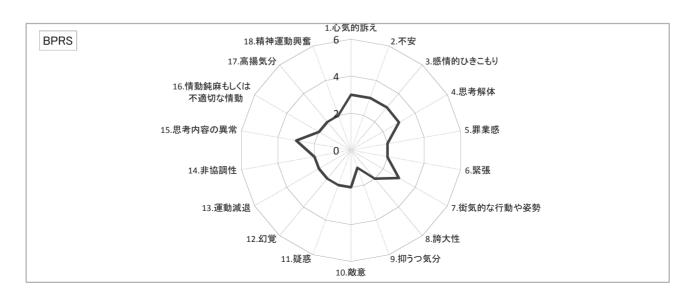


日付平成24年12月27日患者ID6239

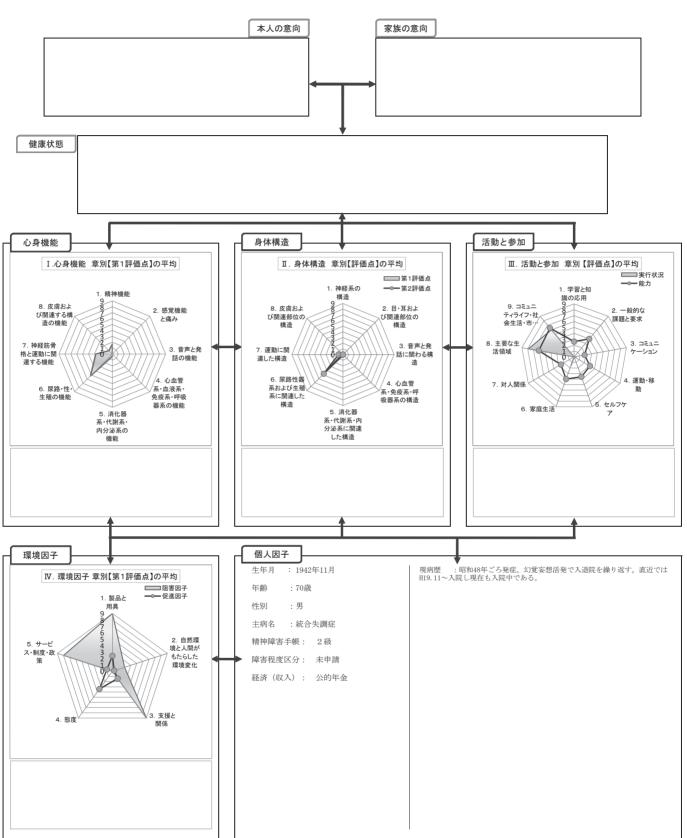


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数:	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	3:中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3:中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	3:中等度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	2:軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2:軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	2:軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2:軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	2:軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2:軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	2:軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2:軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	2:軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度
18. 精神運動興奮		2:軽度

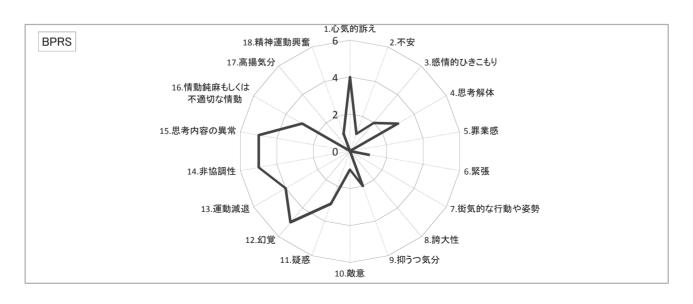


日付平成24年12月21日患者ID1

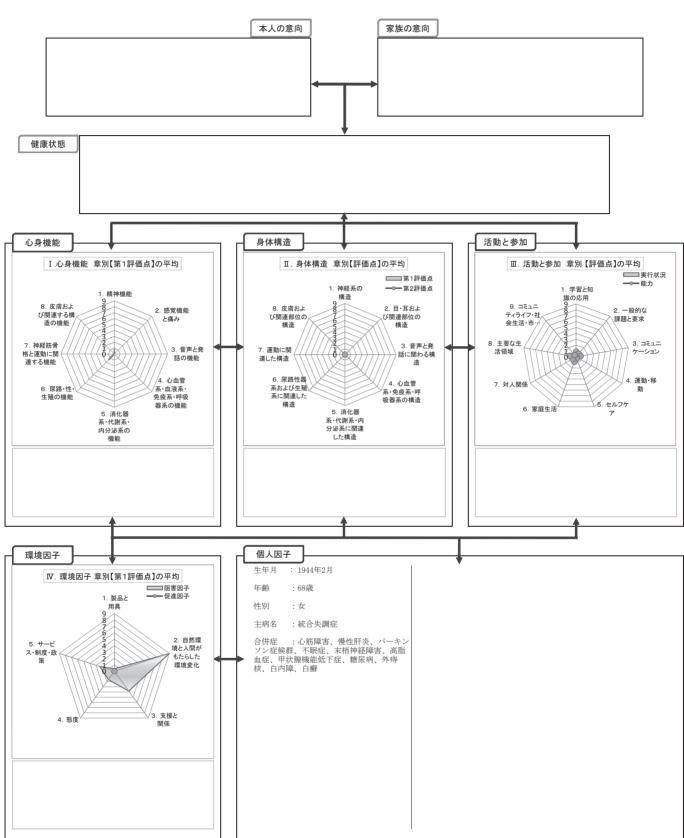


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	4:やや高度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	2:軽度
4. 思考解体		3:中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	2:軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1:ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	3:中等度
12. 幻覚		5:高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4:やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	5:高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	5:高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度

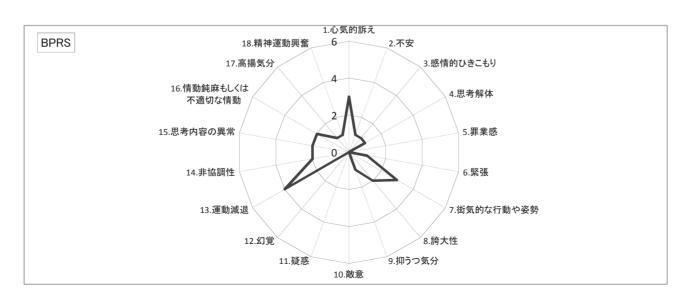


日 付 平成24年12月19日 患者ID 10000024



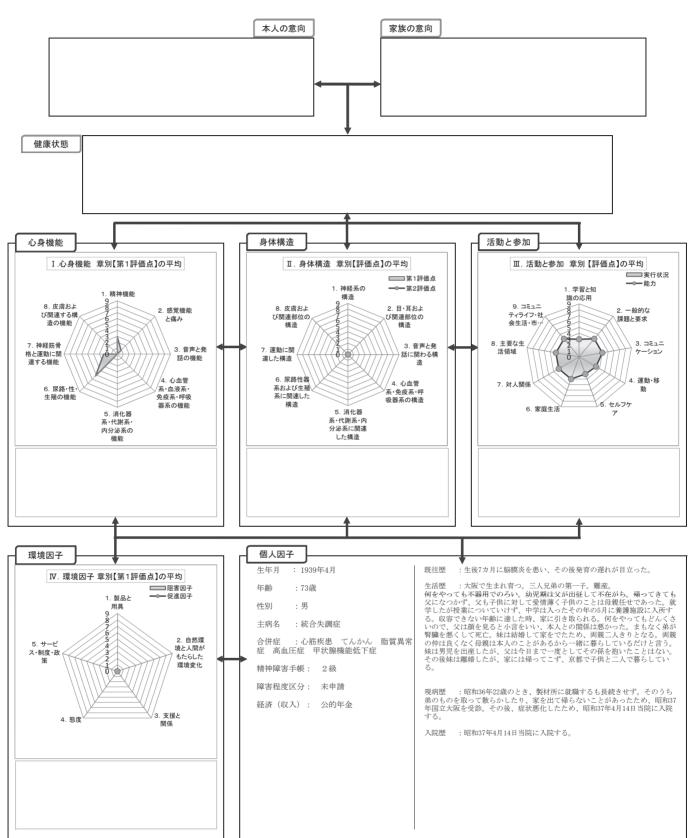
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	3:中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	1:ごく軽度
4. 思考解体		1:ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	 1:ごく軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	2:軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4:やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2:軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	2:軽度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	2:軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	1:ごく軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度



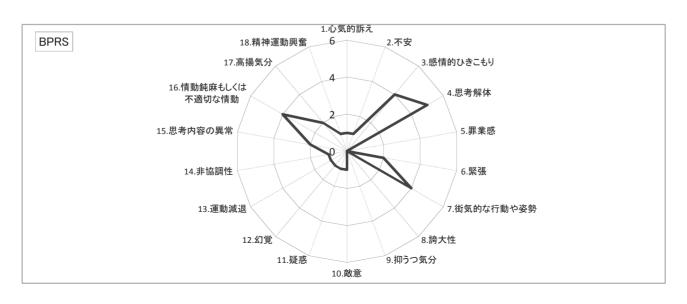
 日 付
 平成24年10月1日

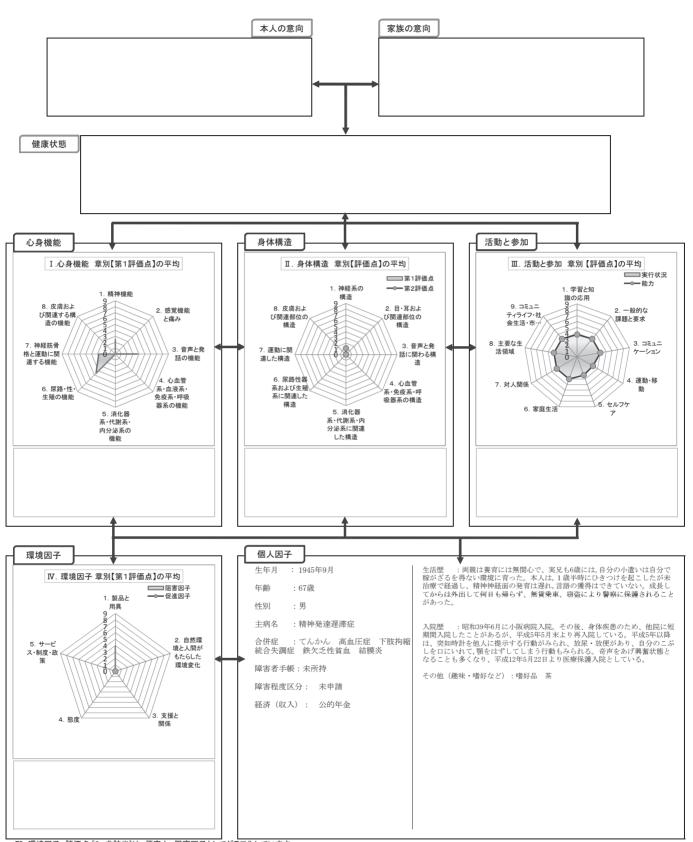
 患者ID
 9217



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

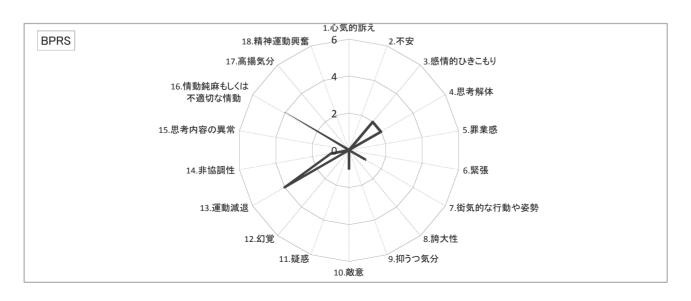
1. 心気的訴え	重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
2. 不安 て評価し、身体的微検」からは推進しない、(後者は緊張の項で評価する。) 1・こく 面接状況に対する関与の欠如、感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価しない。) 4. 思考解体 思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。 5: 高度 3. 感情的ひきこもり 評価しない。) 6. 累票	1. 心気的訴え	する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。) 4. 思考解体 思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。 5: 高度 5: 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難、罪を受けて当然だと思う。 0: 症状なし 不安(激越にまでおよぶ)、緊張、過敏焦燥の身体的および運動機能における微 候、観察にもとづいての評価。 4: やや高度 7. 微気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度、観察にもとづいての評価。 4: やや高度 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 0: 症状なし 悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣(様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動滅退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、僧悪の表情。面接場面外のイライラした。敵対的、政撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 1: ごぐ軽度 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 1: ごぐ軽度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1: ごぐ軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 1: ごぐ軽度 15. 思考内容の異常 かりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想、この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない、本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた温帯ではよられない、表面接句の非過常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない、本面接中の非指示的部分および指示的ので得られた通常ではよられない、表面接句の解析、方での表想、これたとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、詩大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものもまを数性のものも含める)病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考なる、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考ない、無效症、表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切、観察にもとづく評価。 感情張陽の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな切。観察にもとづく評価。 虚情疑疑の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな切。観察にもとづく評価。 虚情疑疑のに下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな切。観察にもとづく評価。 2: 軽度	2. 不安		1:ごく軽度
 5. 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難、罪を受けて当然だと思う。 0:症状なし (3. 感情的ひきこもり	評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は	4: やや高度
6. 緊張 不安 (激越にまでおよぶ)、緊張。過敏無燥の身体的および連動機能における做 候。観察にもとづいての評価。 2:軽度 2:軽度 3. 後別な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。 4:やや高度 3. 時大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 0:症状なし 悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動滅退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした。敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。 2. 公覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 1: ごく軽度 13. 運動滅退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1: ごく軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 2: 松度 15. 思考内容の異常 適常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、患者内容に対している。五面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、思考内容に対している。 2:軽度 2:軽度 0. 6. 情勤鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如、無限し、無效症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 2:軽度	4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	5:高度
 2. 軽度 (長、観察にもとづいての評価。 (長、観察にもとづいての評価。 (日、後年の本) (本の本) (本の本)	5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 9. 抑うつ気分 表気情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 15. 思考内容の異常 では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等・ウェマでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如、無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2: 軽度 	6. 緊張		2:軽度
悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 値にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 1. ご〈軽度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1. ご〈軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 適常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風 変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた正。常では見られない。患者内容は、たと え他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等つすでに評価されていても こで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含め る)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、歌響妄想、思考 吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動 欠別に下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。 2: 軽度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2: 軽度	7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	4:やや高度
9. 抑うつ気分 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 0:症状なし慮にいれない。 10. 敵意 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 1:ごく軽度者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 1:ごく軽度 11. 疑惑 労界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 1:ごく軽度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1:ごく軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 1:ごく軽度 15. 思考内容の異常 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常でいのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離と無く妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性の妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 2:軽度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 4:やや高度切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2:軽度	8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
10. 敵意 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 1: ごく軽度 2. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 1: ごく軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 1: ごく軽度 15. 思考内容の異常 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものもま妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 4: やや高度 15. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2: 軽度	9. 抑うつ気分	者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考	0:症状なし
11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 1:ごく軽度 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 1:ごく軽度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1:ごく軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 1:ごく軽度 15. 思考内容の異常 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 2:軽度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 4:やや高度切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2:軽度	10. 敵意	攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接	1:ごく軽度
13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1:ごく軽度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 1:ごく軽度 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 2:軽度 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 4:やや高度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2:軽度	11. 疑惑	増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含	1:ごく軽度
14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 1:ごく軽度 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 2:軽度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 4:やや高度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2:軽度	12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	1:ごく軽度
通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2: 軽度	13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2: 軽度	14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度
7. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 2:軽度	15. 思考内容の異常	変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考	2:軽度
		欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適	4: やや高度
18. 精神運動興奮 会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。 1: ごく 軽度	17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度
	18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度





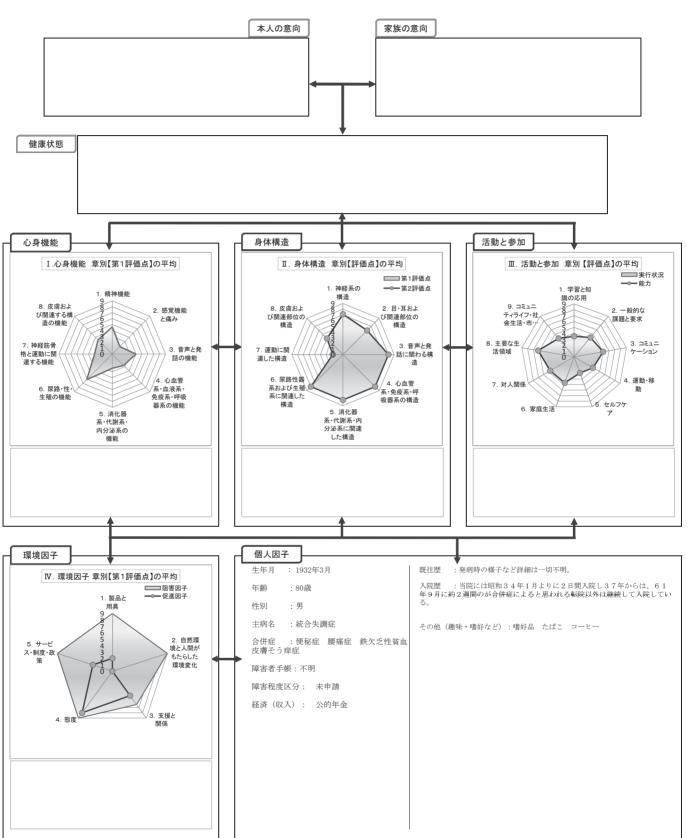
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の	の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
	態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す	0:症状なし
	懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい な的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
	する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ こでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は	2:軽度
4. 思考解体 思考形式の障		2:軽度
5. 罪業感 過去の行為に		0:症状なし
h both	でおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴 づいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常同的	り、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性 過大な自己評値		0:症状なし
	ま力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 ・	5 0:症状なし
10. 敵意 攻撃的行為で	敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面技 意は非協調性の項で評価する。	発 1:ごく軽度
	者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含	
12. 幻覚 外界からの刺激	激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退 運動および会調	話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4:やや高度
14. 非協調性 面接者および	面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度
変わりな確信や 性についてのる 示的部分および 元他の項(例、 ここで再び評価	れない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常み評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指び指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たと心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもあする。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含め、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考も評価する。	0・停化421
	下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 ごづく評価。	4: やや高度
17. 高揚気分 健康感の増大	から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
,		



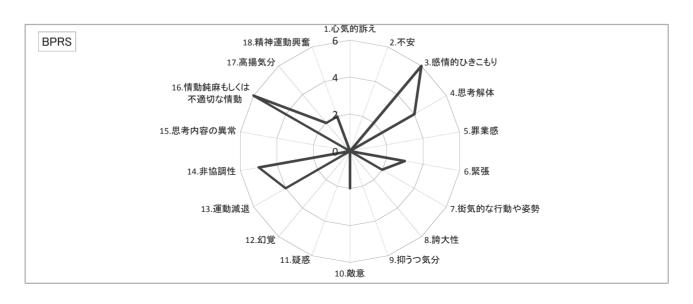
 日 付
 平成24年10月1日

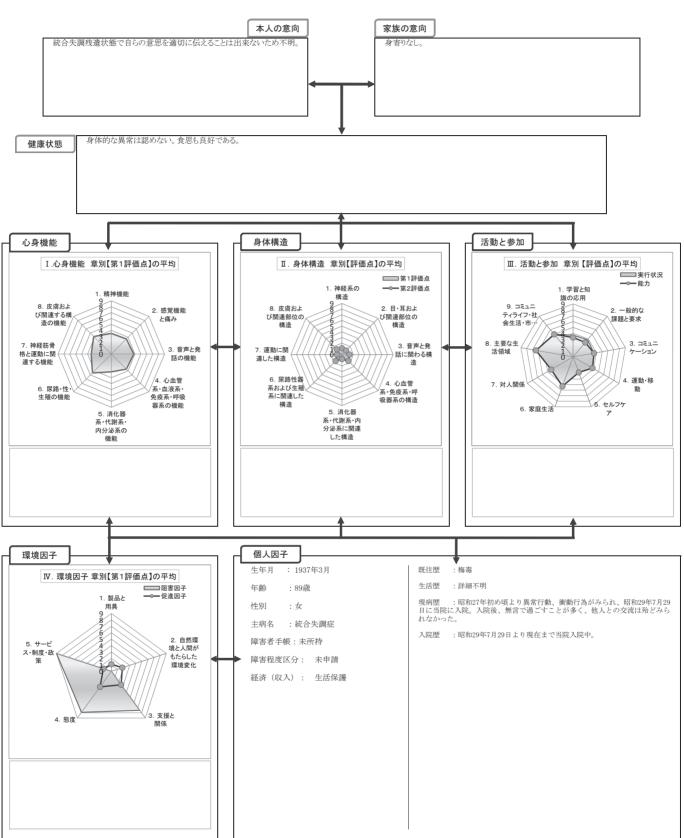
 患者ID
 65110



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

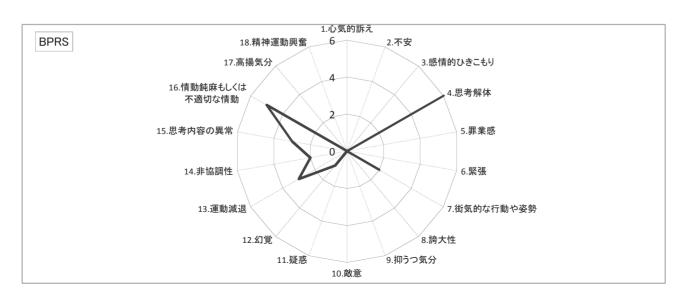
重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4:やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2:軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2:軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4:やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	5:高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0:症状なし
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	2:軽度



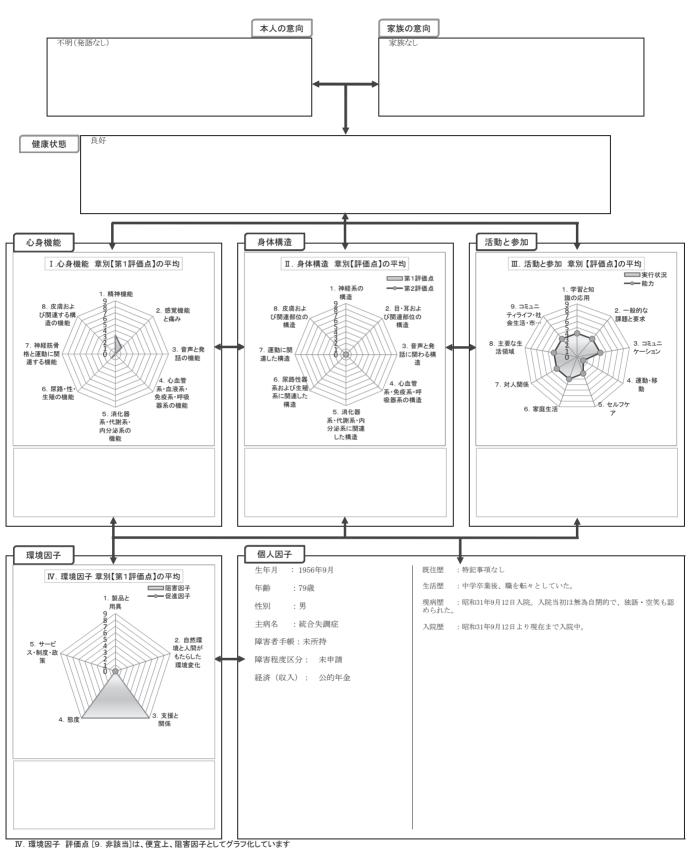


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

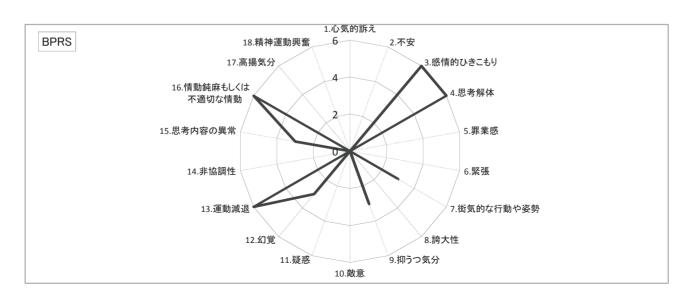
重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2:軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	1:ごく軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2:軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	5: 高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



日 付 平成24年12月18日 患者ID

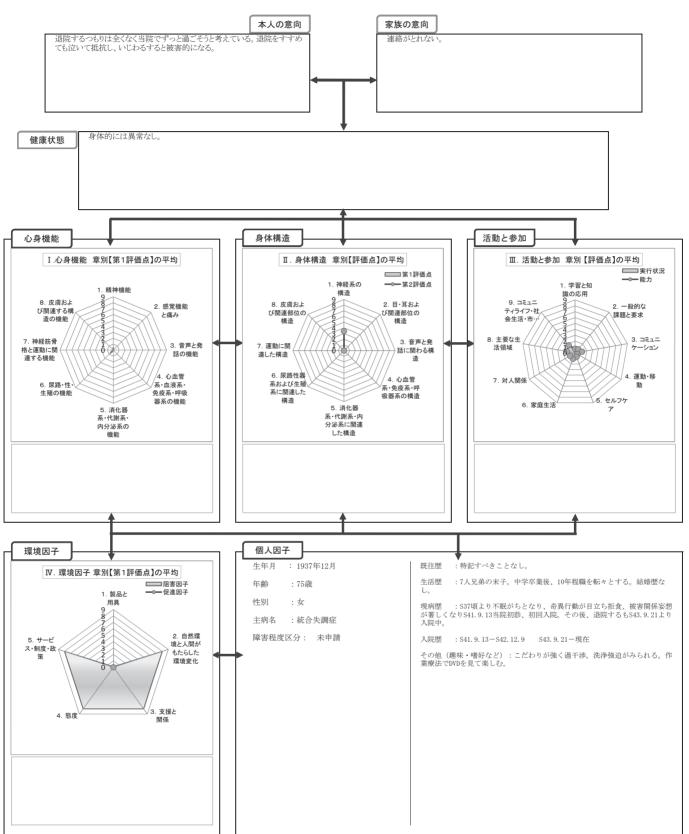


重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体		6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	3:中等度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3:中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮		0:症状なし



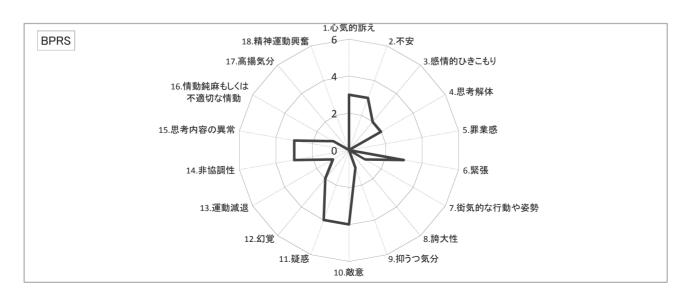
 日 付
 平成24年12月18日

 患者ID
 3

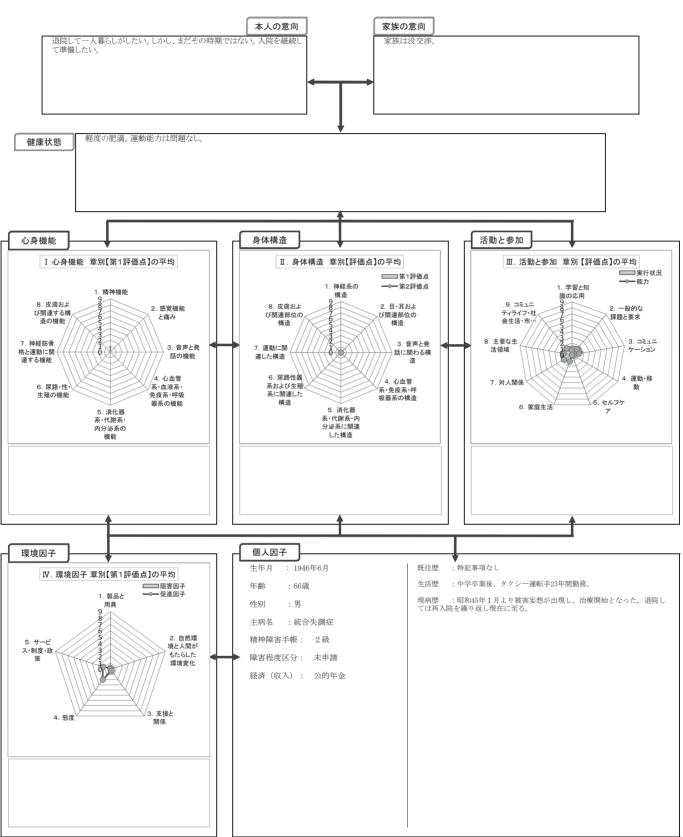


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	3:中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3:中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2:軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2:軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。 観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	4:やや高度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	4: やや高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2:軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	1:ごく軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
		0:症状なし

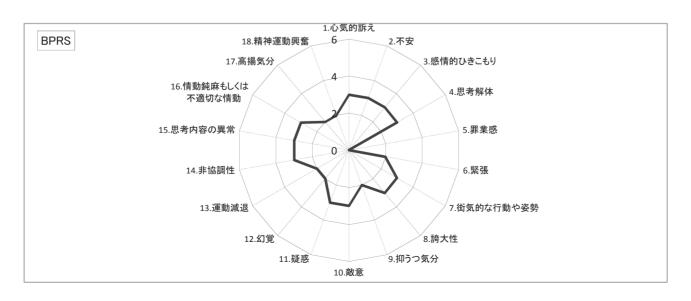


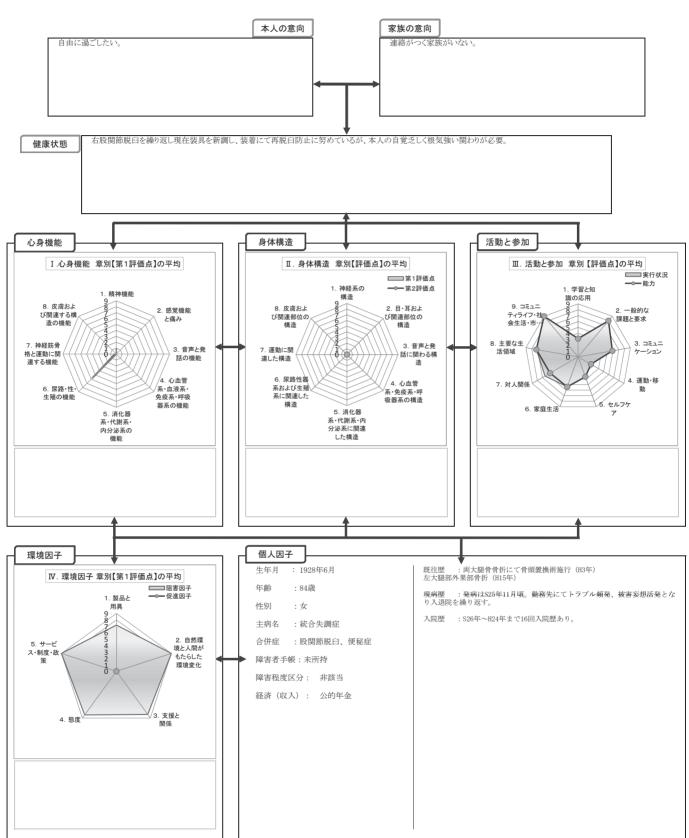
日 付 平成24年12月18日 患者ID 4



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

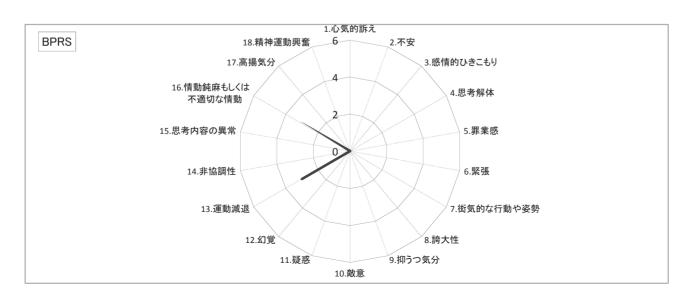
重症度を表す数字の	中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
	体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 る臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す 。	3:中等度
	配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい 評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3:中等度
3. 感情的ひきこもり 評	接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は価しない。)	3:中等度
4. 思考解体 思	考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
5. 罪業感 過	去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
I N 55.CE :	安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴。観察にもとづいての評価。	2:軽度
7. 衒気的な行動や姿勢 風	変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性 過	大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3:中等度
9. 抑うつ気分 者	哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 にいれない。	2:軽度
10. 敵意 攻	者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3:中等度
11. 疑惑 増	者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含る。	3:中等度
12. 幻覚 外	界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2:軽度
13. 運動減退 運	動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	2:軽度
14. 非協調性 面	接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
変性 性 15. 思考内容の異常 えん ここ るご	常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たと他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含め)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考入等の内容も評価する。	3:中等度
10. 情期鈍麻もしくは 欠	情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適。観察にもどづく評価。	3:中等度
l		
17. 高揚気分 健	康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度





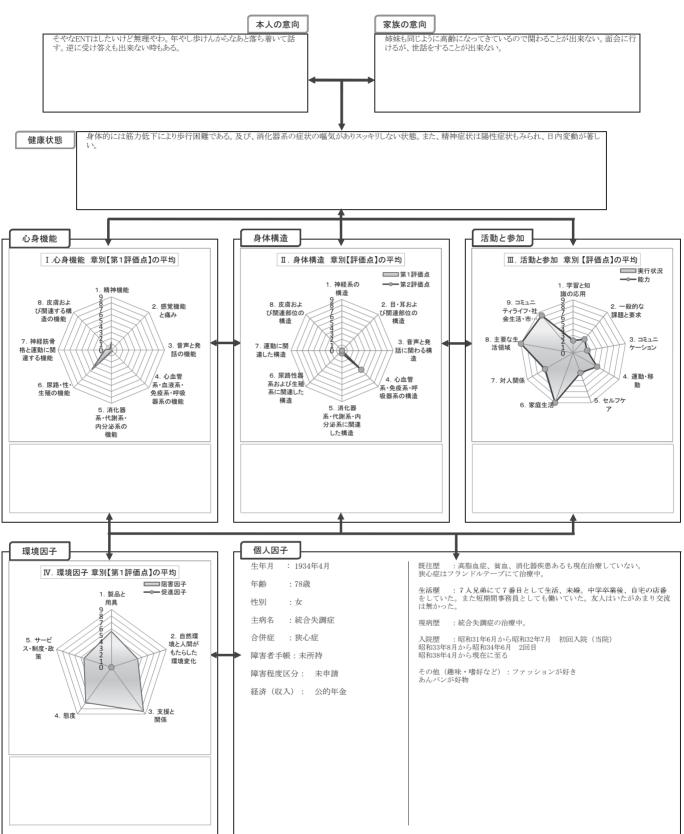
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体		0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0:症状なし
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮		0:症状なし



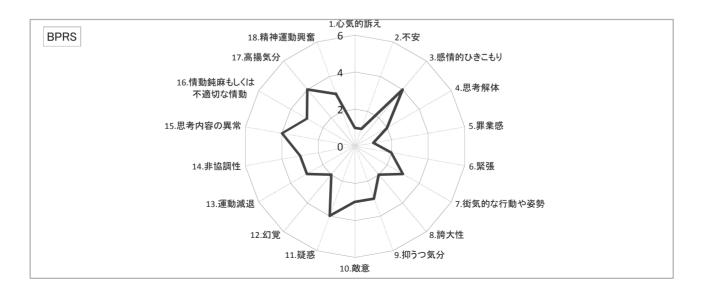
 日付
 平成24年12月14日

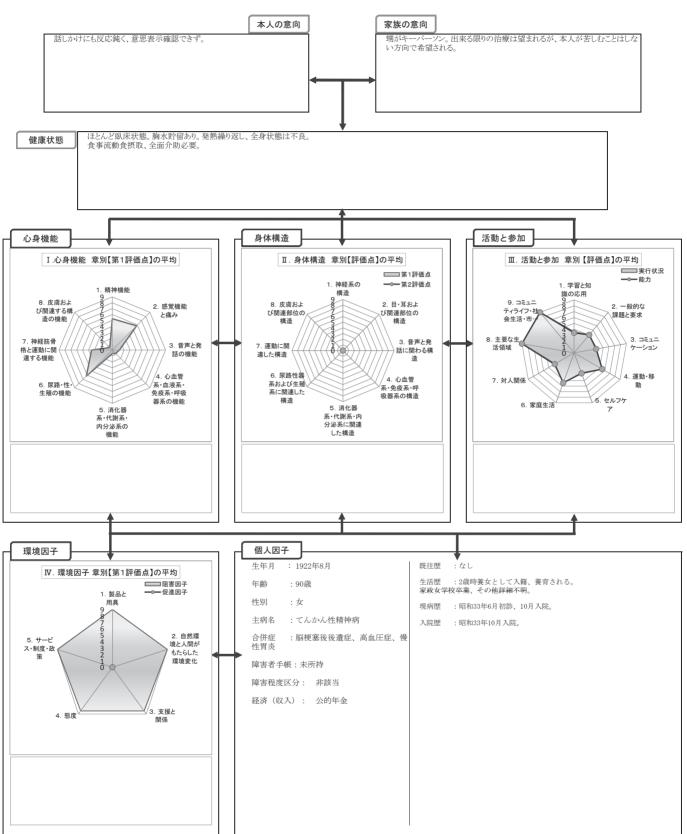
 患者ID
 135828



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

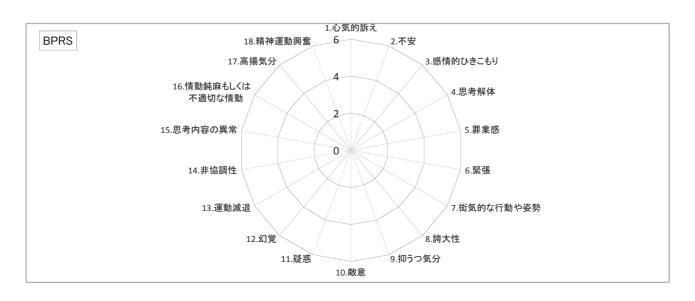
重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	4: やや高度
4. 思考解体		2:軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2:軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	2:軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	3:中等度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3:中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	4:やや高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2:軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4:やや高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	4:やや高度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3:中等度





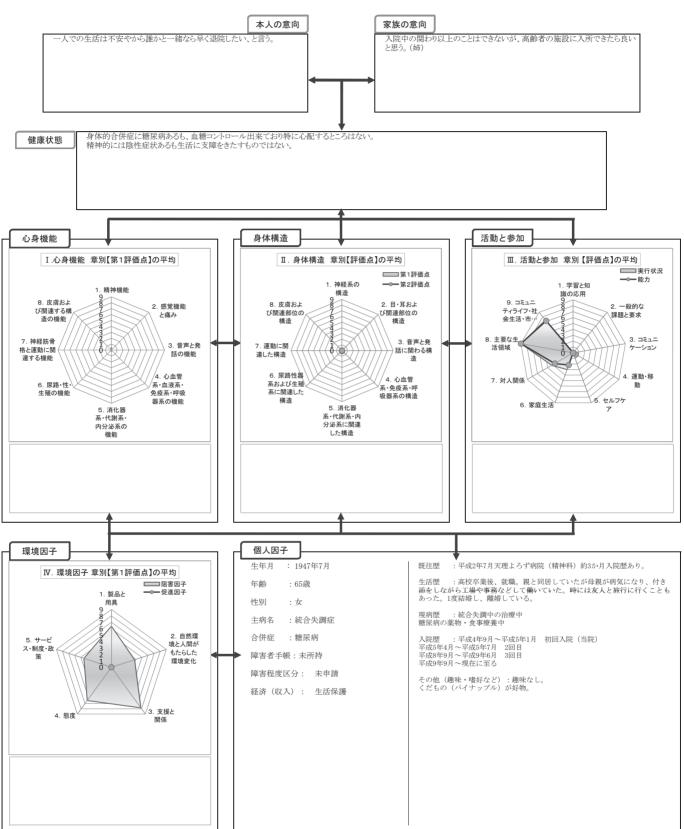
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体		0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0:症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0:症状なし
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮		0:症状なし



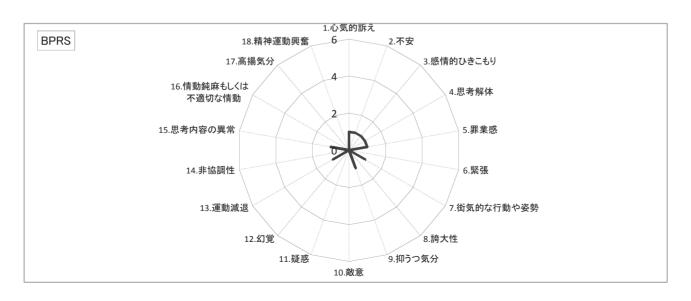
 日付
 平成24年12月14日

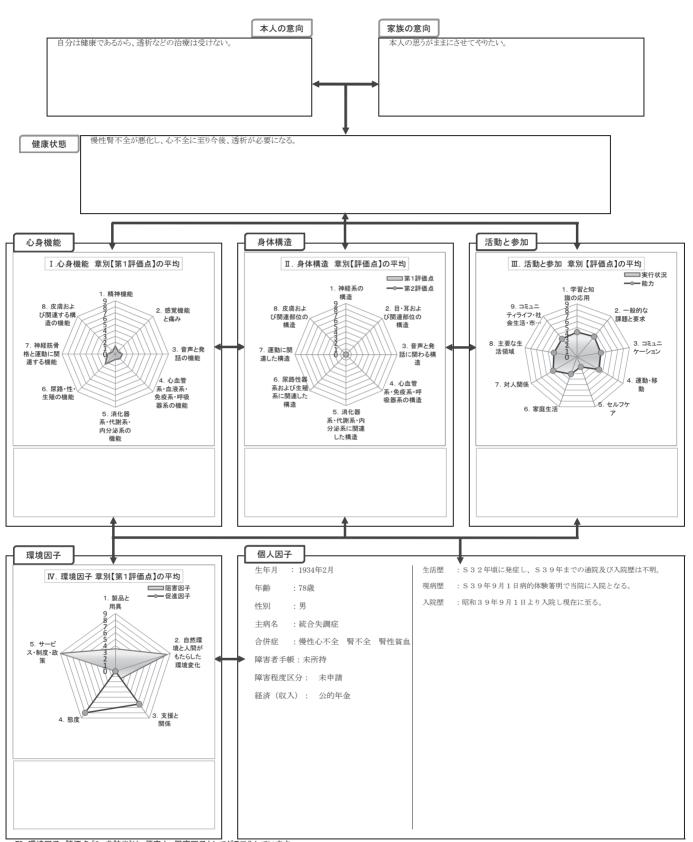
 患者ID
 337323



IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

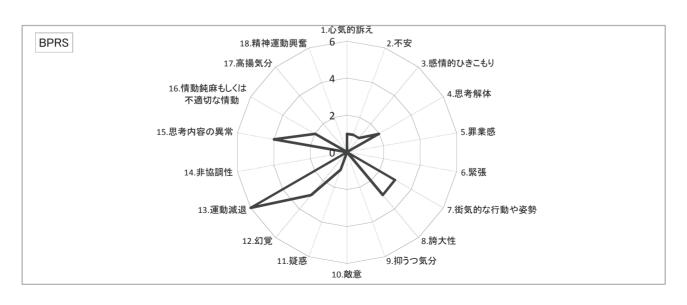
重症度を表す数字	この中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	1:ごく軽度
	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	1:ごく軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
1 h 50 CE	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
10. 情期純麻もしくは 不適切か信動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし





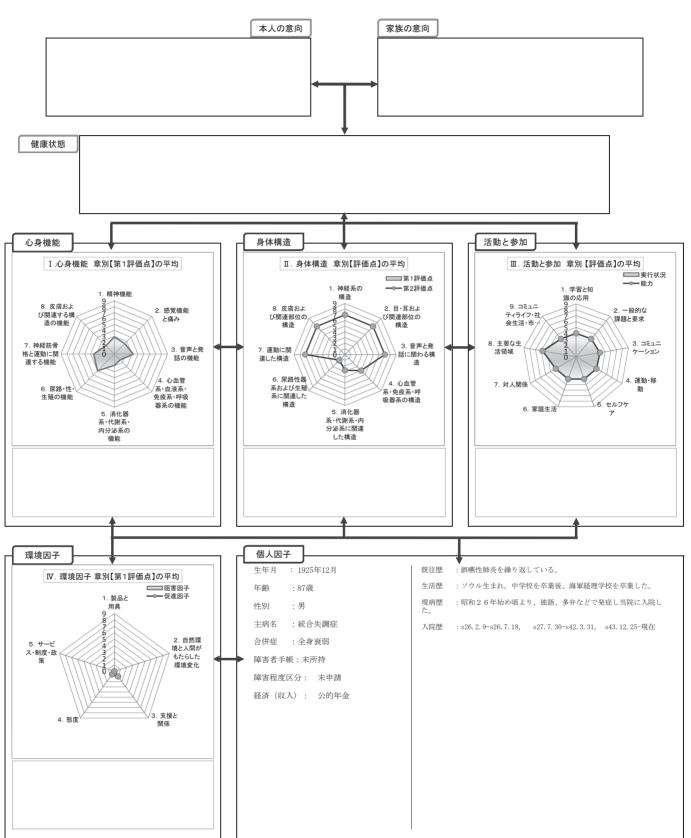
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

1. 心気的訴え お価族所張の有無に関わらず評価する。身体的健康状態に関する訴えに相当する臨族所張の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば横外に記入する。 2. 不安 心配、適度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験、喜語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的機長」からは推論しない、(後者は緊張の項で評価する。) にごく軽度 面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。) 4. 思考解体 思考形式の障害、主に観察にもとづいての評価。 2: 軽度 過去の行為についての呵克。自責・自己非難、罪を受けて当然だと思う。 0: 症状なし (疾 観察にもとづいての評価) 2: 軽度 疾 観察にもとづいての評価。 2: 軽度 疾 観察にもとづいての評価がある。 3: 中等度 境 観察にもとづいての評価。 3: 中等度 境 観察にもとづいての評価。 3: 中等度 境 観察にもとづいての評価。 3: 中等度 境 観察にもとづいての評価。 3: 中等度 り から、 3: 中等度 も	重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
2. 小女 て評価し、身体的微検」からは推論しない、(後者は緊張の項で評価する。) 1・ 〜 転換 面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価しない。) 4. 思考解体 思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。 2: 軽度 5. 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。 0:症状なし 6. 緊張 不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における微 候。観察にもとづいての評価。 0:症状なし 7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度、観察にもとづいての評価。 3: 中等度 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、高、使命。 3: 中等度 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、高、使命。 3: 中等度 9. 抑うつ気分 着の表情や近く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的旅だは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑がら関係を虚や迫害も定まで含める。ここには妄想気分も含める。 まっまりし他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑がら関係を虚や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 3: 中等度 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3: 中等度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 6: 非常に高度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 0 症状なし 適常では見られない、奇妙、奇怪な民、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想、この項では内容の非通常	1. 心気的訴え	する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。) 1:ご〈軽度 4. 思考解体 思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2. 不安		1:ごく軽度
 5. 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難、罪を受けて当然だと思う。 0:症状なし 6. 緊張	3. 感情的ひきこもり	評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は	1:ごく軽度
6. 緊張 不安 (激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴 候。観察にもとづいての評価。 3: 中等度 4: 表しいった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 名に対する敵意に非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 3: 中等度 13. 運動減退 運動および会話の速度の最適低に、対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 3: 中等度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 6: 非常に高度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 0: 症状なし 適常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例)、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価する。 6: 非常に高度 15. 思考内容の異常 ですでに評価する。またここで種としてはを記憶のものもきめる)、病的嫉妬、妊娠妄想、生的妄想、変想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 虚情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如、無関心、無效症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切、観察にもどづく評価。 2: 軽度	4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2:軽度
 0. 繁張 候。観察にもとづいての評価。 7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 3. 中等度 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 3. 中等度 9. 抑うつ気分 若変素性の立体様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動滅退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 15. 思考内容の異常 性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常ではよられない。思考内容はまたとこの項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容の非通常性についてみ事価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容の非の主なれていてもこで再び評価する。またこで離人症(妄想性のものもき含める)病的嫉妬、妊娠妄想性的妄想、変想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考攻入等の内容も評価する。 6. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無效症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、難察し、無效症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 17. 高揚気分 	5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 3: 中等度 表哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動滅退、心気的訴えは考 慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。 4. 紅質 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 2. 紅質 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象から評価する。 4. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 6. 非常に高度 15. 思考内容の異常 15. 思考内容の異常 16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動 欠かの内容も評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 を情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 18. 世界気分 	6. 緊張		0:症状なし
# 表	7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
9. 抑うつ気分 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3: 中等度 3. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 6: 非常に高度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 0:症状なし 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常でについてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。取考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 2:軽度	8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3:中等度
10. 敵意 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3: 中等度 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 6:非常に高度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 0:症状なし 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、表内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 0:症状なし 2:軽度 切。観察にもどづく評価。 0:症状なし	9. 抑うつ気分	者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考	0:症状なし
11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 1:ごく軽度 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3:中等度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 6:非常に高度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 0:症状なし 適常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、変想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 4:やや高度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 2:軽度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	10. 敵意	攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接	0:症状なし
13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 6:非常に高度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 0:症状なし 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 2:軽度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	11. 疑惑	増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含	1:ごく軽度
14. 非協調性面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。0:症状なし通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。4:やや高度16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。2:軽度17. 高揚気分健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。0:症状なし	12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3:中等度
通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
7. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし 0	15. 思考内容の異常	変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考	4: やや高度
		欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適	2:軽度
18. 精神運動興奮 会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。 0:症状なし	17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
	18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



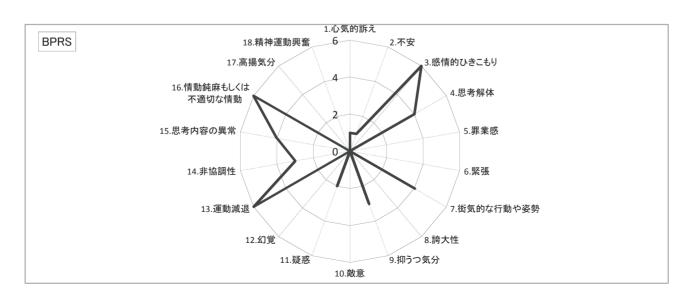
 日 付
 平成24年12月30日

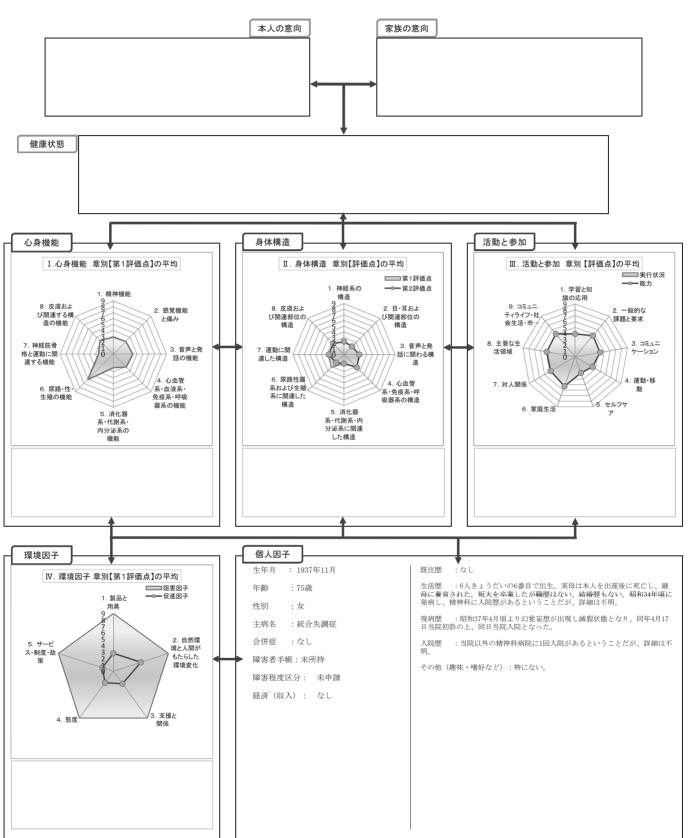
 患者ID
 220



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

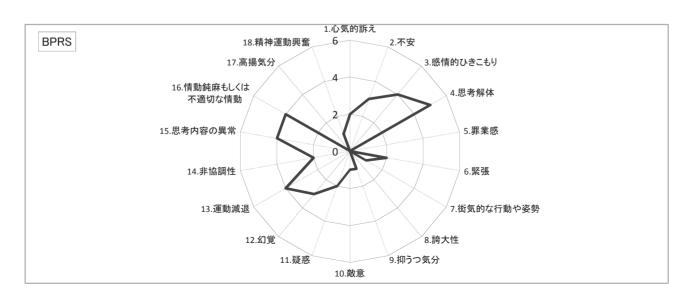
重症度を表す数量	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4: やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	4:やや高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	3:中等度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	2:軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4: やや高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



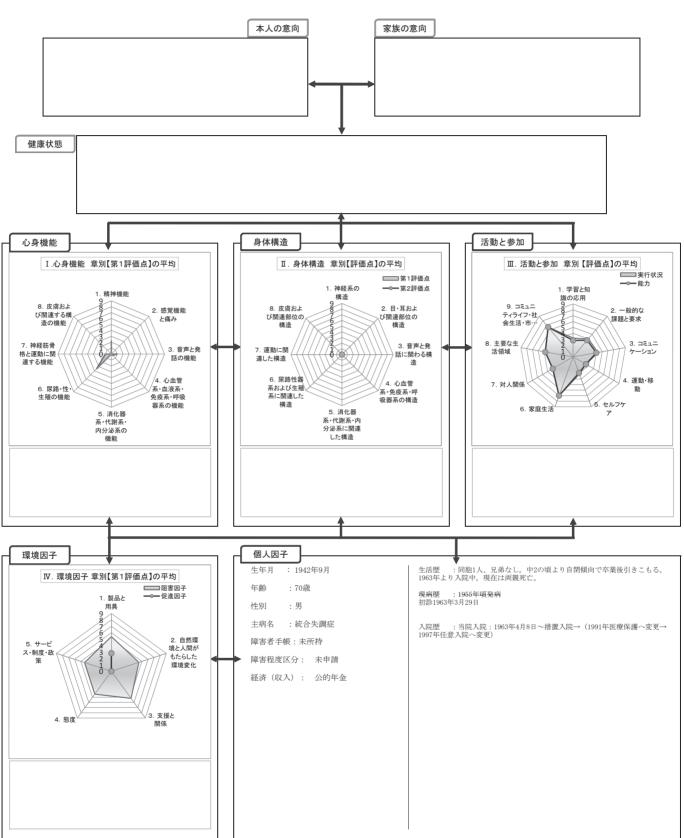


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3:中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	4:やや高度
4. 思考解体		5:高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2:軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1:ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	2:軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3:中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4:やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2:軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4: やや高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	4:やや高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度

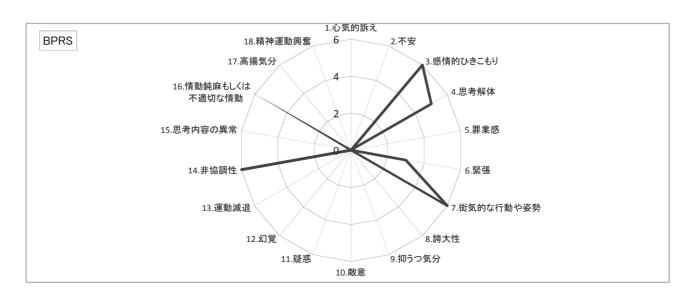


日 付 平成24年12月20日 患者ID 1



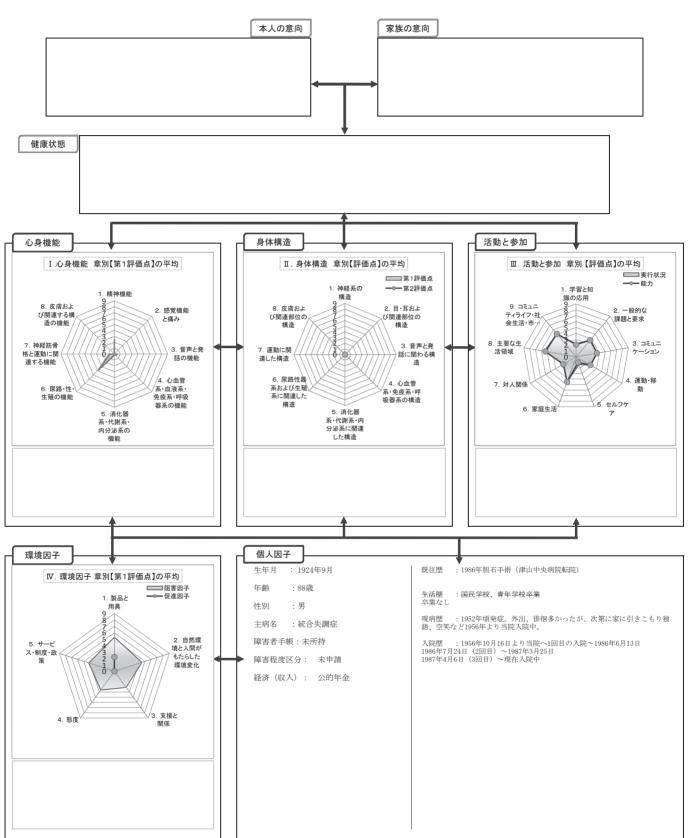
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	5:高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0:症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0:症状なし
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮		0:症状なし



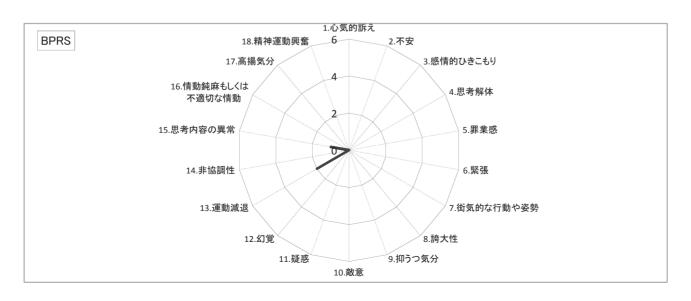
 日 付
 平成24年12月21日

 患者ID
 2



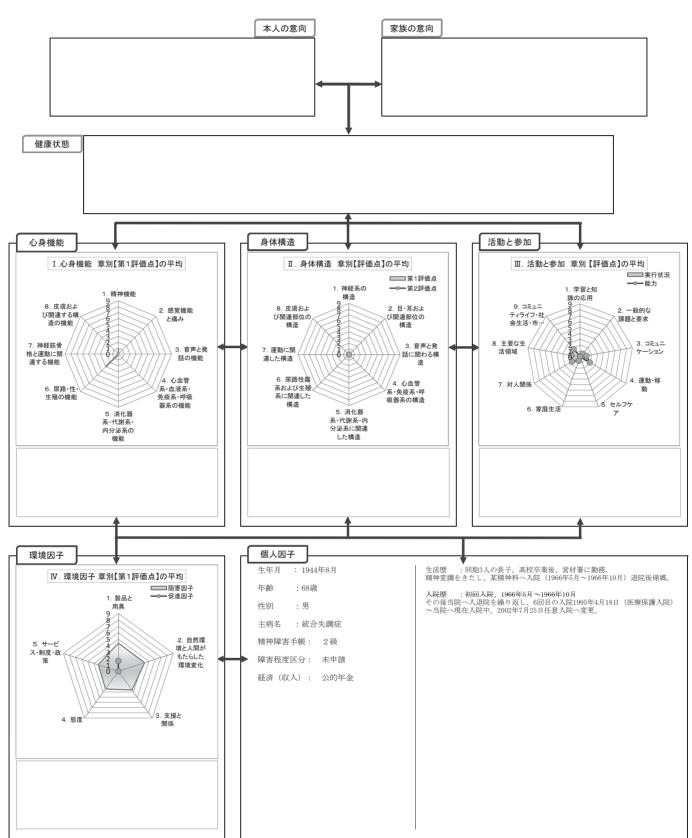
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	2:軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



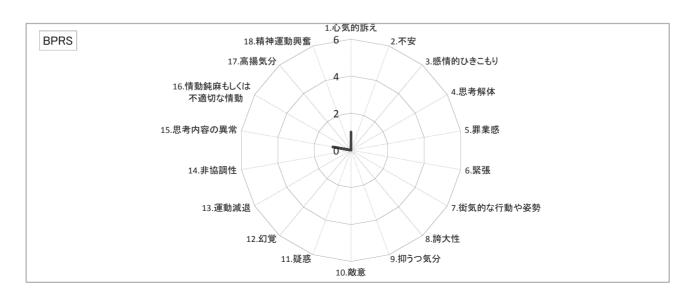
 日付
 平成24年12月21日

 患者ID
 3

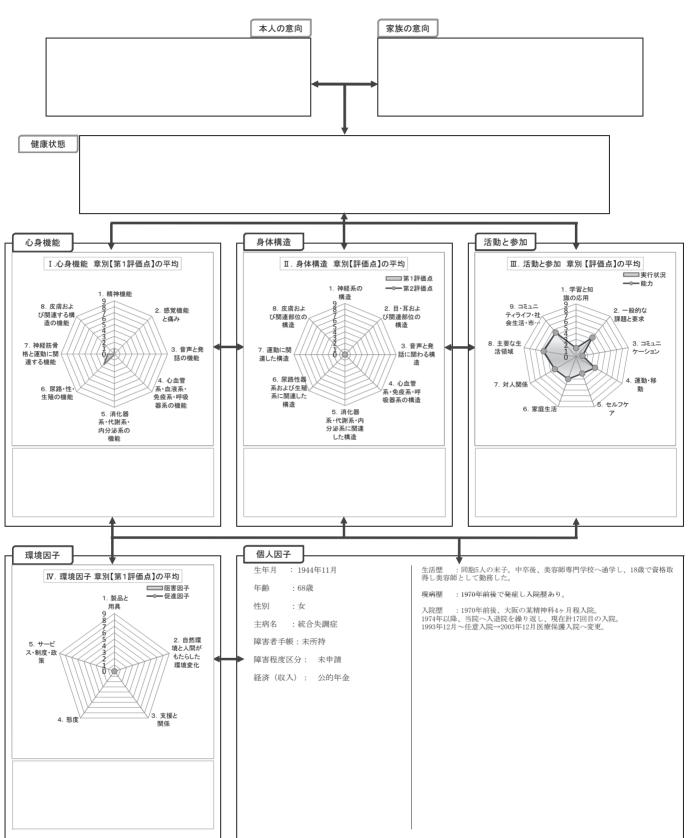


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0:症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮		0:症状なし

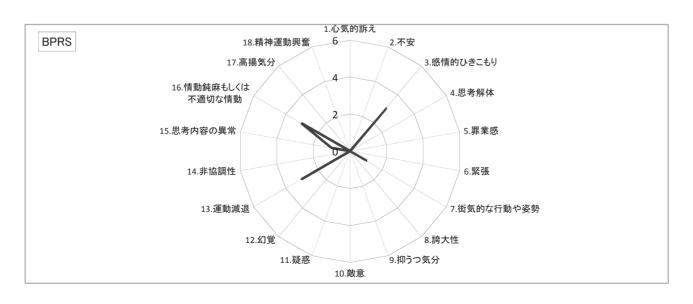


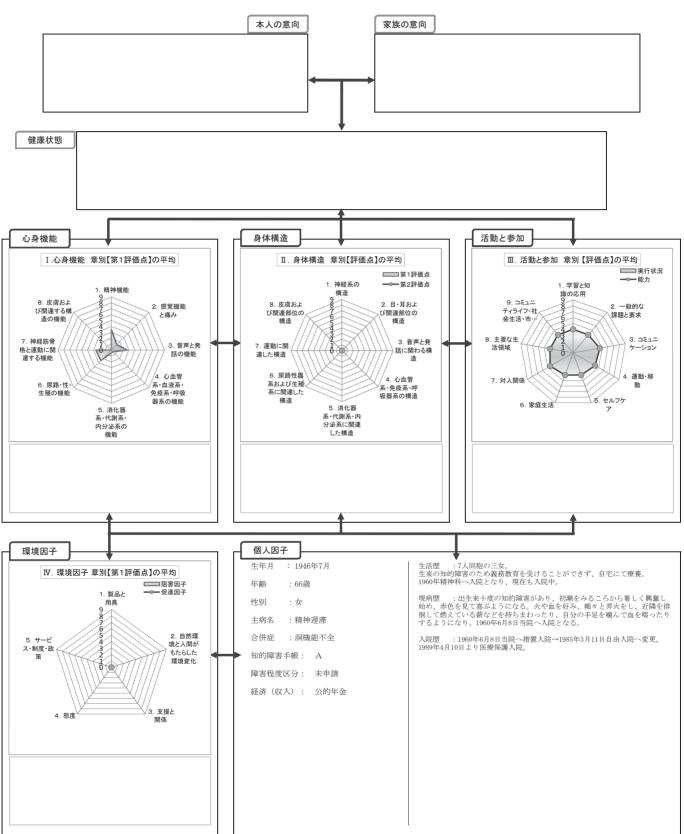
<u>日 付 平成24年12月25日</u> 患者ID 4



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

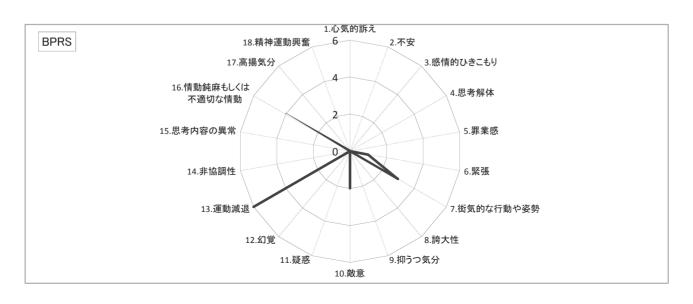
重症度を表す数:	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	3:中等度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



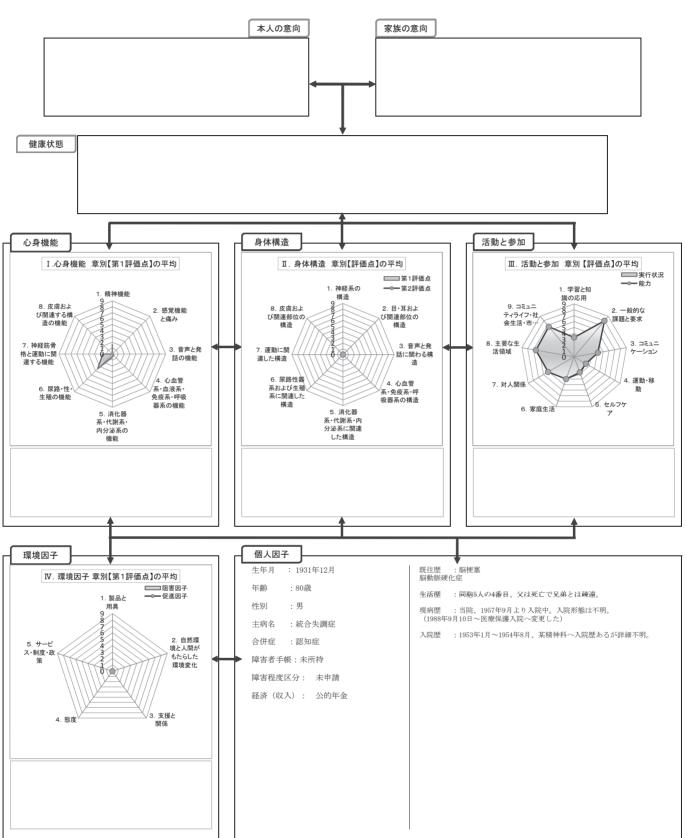


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数5	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体		0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2:軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚		0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0:症状なし
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	4: やや高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮		0:症状なし

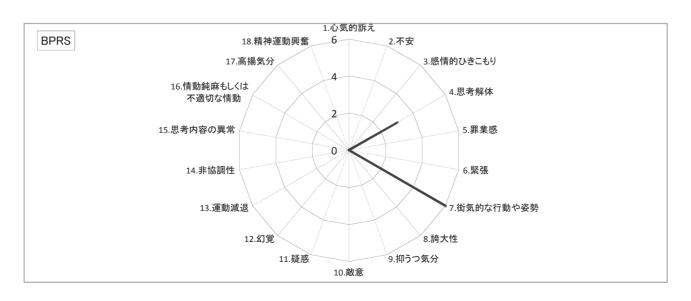


<u>日 付 平成24年12月25日</u> 患者ID 6



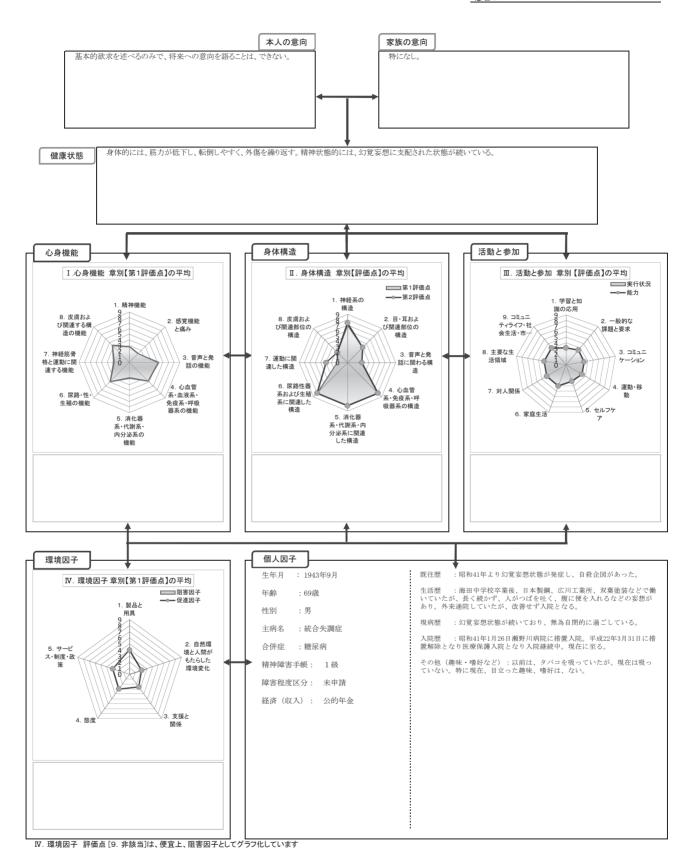
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。 観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0:症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0:症状なし
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

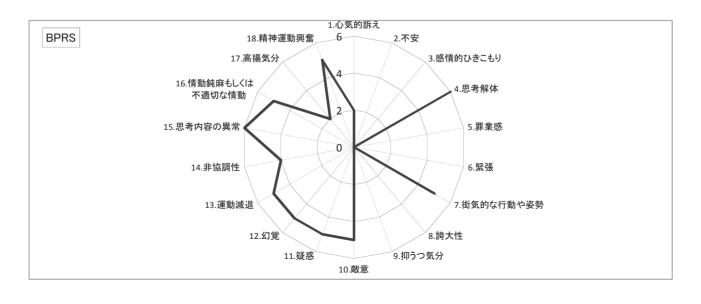


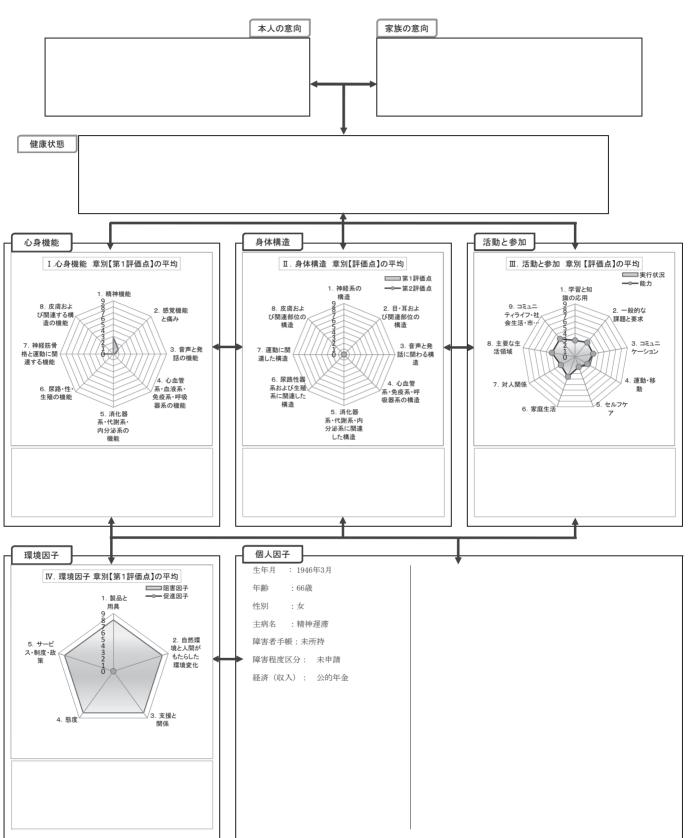
 日 付
 平成24年10月31日

 患者ID
 k. m



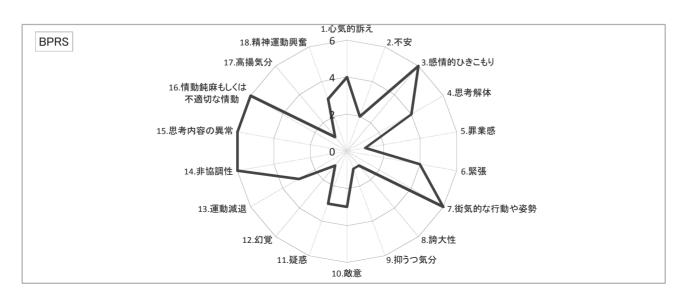
重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体		6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	5:高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	5:高度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	5:高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	5:高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	5:高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	4:やや高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6:非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	5: 高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	5: 高度

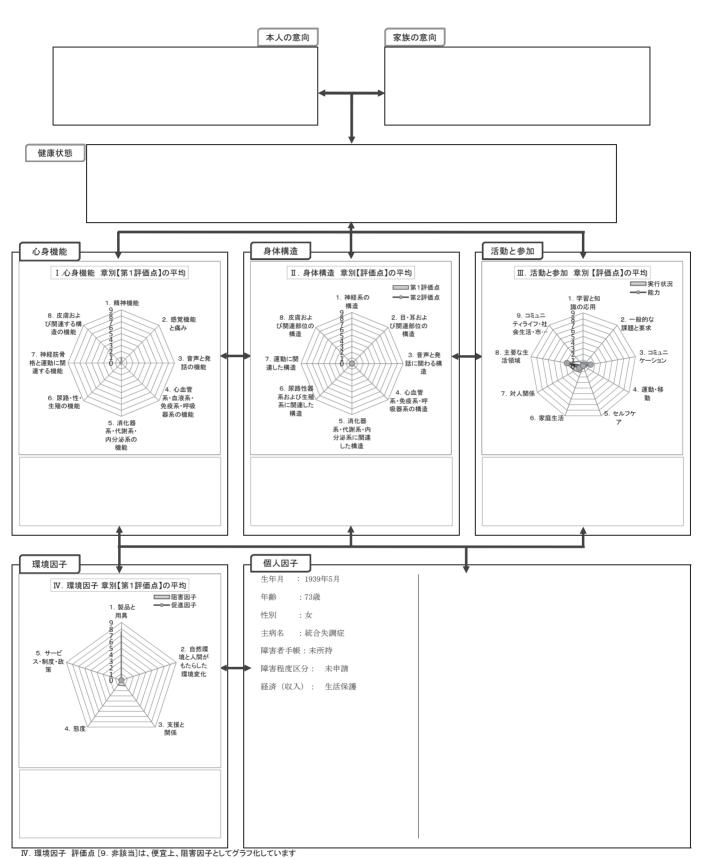




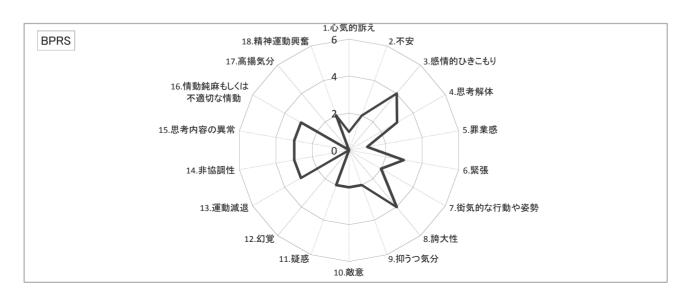
Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

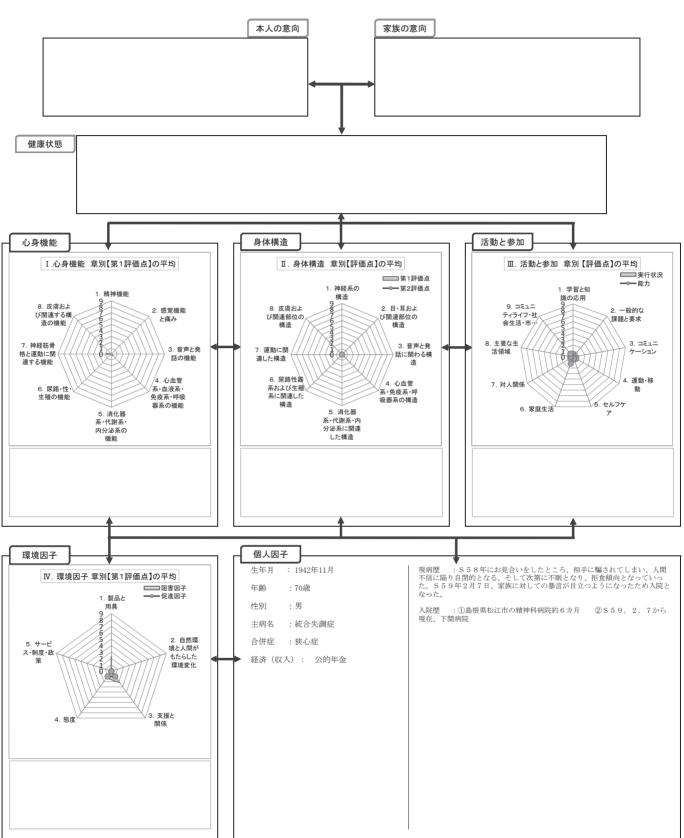
重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	4: やや高度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	2:軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4:やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	4:やや高度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	1:ごく軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3:中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	3:中等度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	1:ごく軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6:非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	1:ごく軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3:中等度





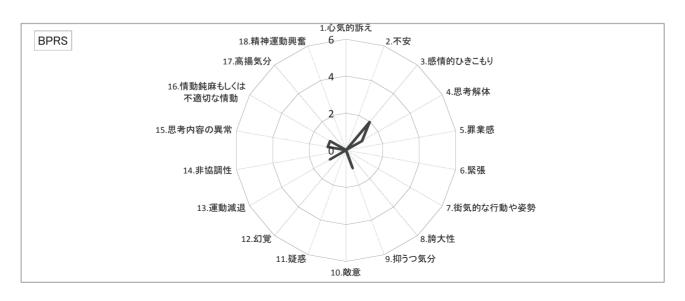
1. 心気的訴え	重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
2. 年辰	1. 心気的訴え	する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。) 4: やや高度 評価しない。) 4. 思考解体 思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。 3: 中等度 5. 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難、罪を受けて当然だと思う。 1: ごく軽度 6. 緊張 不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における微 候、観察にもとづいての評価。 3: 中等度 7. 微気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。 2: 軽度 8. 誇大性 過去な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 4: やや高度 9. 抑うつ気分 着の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動滅退、心気的訴えは考慮には、被検者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しか罪寒感、運動滅退、心気的訴えは考慮には、対験的大力を関係し対している。の面接者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 2: 軽度 10. 敵意 教室が行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。ここには妄想気分も含める。ここには妄想気分も含める。ここには妄想気分も含める。 2: 軽度 11. 疑惑 増加や経度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 2: 軽度 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3: 中等度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗、観察にもとづく評価。 3: 中等度 15. 思考内容の異常 からの異常、変化しての表すまない。大きなしてのみずは、内容の非正常性についてのみ評価と、まるといも含める。対しの項が、は内容の非正常性についてのみ評価と、まるといに強がなに対しれる。まるという確しないまないで、などのでは、などのよりまないのでは、などのでは、などのでは、などに、などのでは、などに、などのでは、などのでは、などに、などに、などに、などののでは、などの表別を表別を表別をあるというない。まるというでは、などのでは、など、などのでは、などのでは、などのでは、などのでは、などのでは、などのでは、などのでは、などのでは、などのでは、などのの場合に対しない、などのの場合に対しない、本面接付の必要は、関係を表別を表別を表別といの場合に対して、適には、表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	2. 不安		2:軽度
5. 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難、罪を受けて当然だと思う。 1: ごく軽度	 3. 感情的ひきこもり 	評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は	4: やや高度
6. 緊張 不安 (激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および連動機能における徹 候。観察にもとづいての評価。 7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 4: やや高度 悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 10. 敵意 他名 に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした。敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 名に対する敵意は非協調性の項で評価する。 2: 軽度 治に対する敵意は非協調性の項で評価する。 ここには妄想気分も含 める。 お外外からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3: 中等度 の接着および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 3: 中等度 面景では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、母かの発体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、思考内容は、たとえ他の項(例)、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価もない、たとえ他に多想やものもも多数もあり、表記を記している。 3: 中等度 16. 情動鈍麻もしくは不適切 をまたこで様とないを表はいるのも多数 る)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、般局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 虚情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如、無関心、無效症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切、観察にもとづく評価。 0: 症状なし	4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
 2. 繁張 候。観察にもとづいての評価。 7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 4. やや高度 9. 抑うつ気分	5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
 8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 4:やや高度 表哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 2:軽度 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 15. 思考内容の異常	6. 緊張		3:中等度
# 哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 3: 中等度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 適常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指方的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指方的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指方的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指方的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指方的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。本面接中の非指方的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない。表面接中の非指方的部分およの指示が多かでは、疑惑やでは、疑惑やしていまる、他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑やりずでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、敬局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 、	7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2:軽度
9. 抑うつ気分 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。 2:軽度 10. 敵意 他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 2:軽度 11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 2:軽度 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 0:症状なし 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 3:中等度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 3:中等度 15. 思考内容の異常 適常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常でいのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない、思考内容の非通常示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもこで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 3:中等度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 3:中等度切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	4:やや高度
10. 敵意 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。 患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。 2:軽度 2:軽度 2:軽度 2:軽度 2:軽度 2:軽度 2:軽度 3:中等度 3:中容 3:中容 3:中容 3:中容 3:中容 3:中容 3:中容 3:中容	9. 抑うつ気分	者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考	2:軽度
11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。 2:軽度 12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 0:症状なし 13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 3:中等度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 3:中等度 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この頂では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 3:中等度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 3:中等度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	10. 敵意	攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接	2:軽度
13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 3:中等度 14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 3:中等度 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 3:中等度 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 3:中等度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	11. 疑惑	増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含	2:軽度
14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 3:中等度 通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 3:中等度 16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 3:中等度 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。 16. 情動鈍麻もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適切。観察にもどづく評価。 17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
7. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし 0:症状態と 0:症状なし 0	15. 思考内容の異常	変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考	3:中等度
		欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適	3:中等度
18. 精神運動興奮 会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。 2: 軽度	17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
	18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	2:軽度

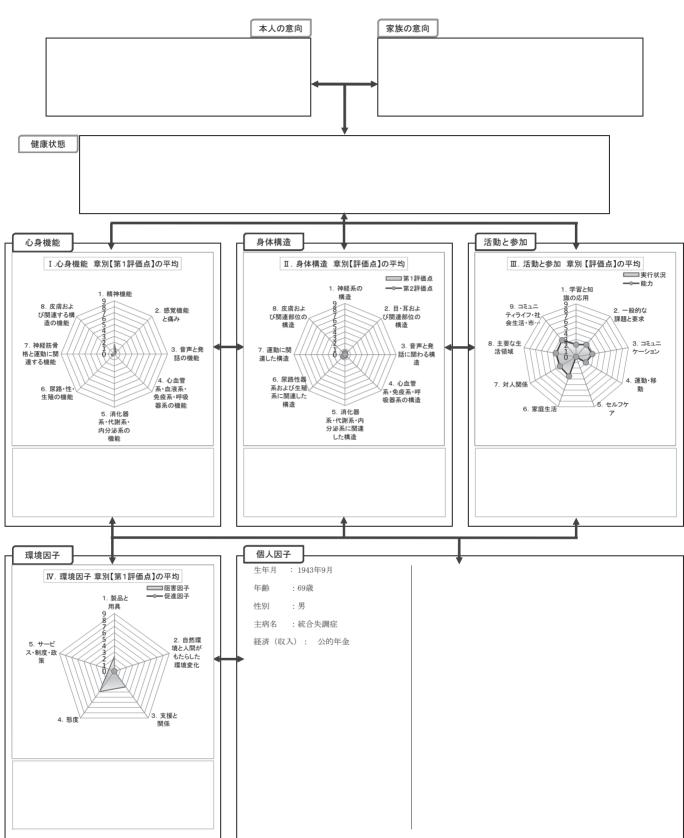




Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

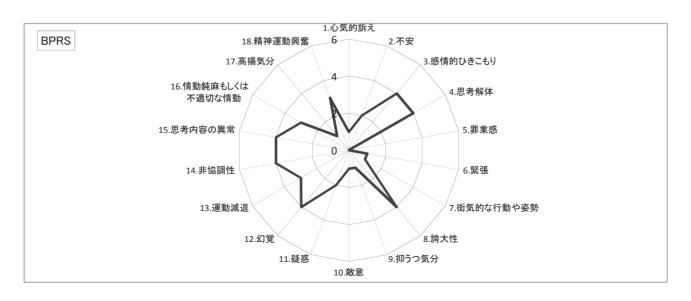
重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 評価しない。)	2:軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	1:ごく軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



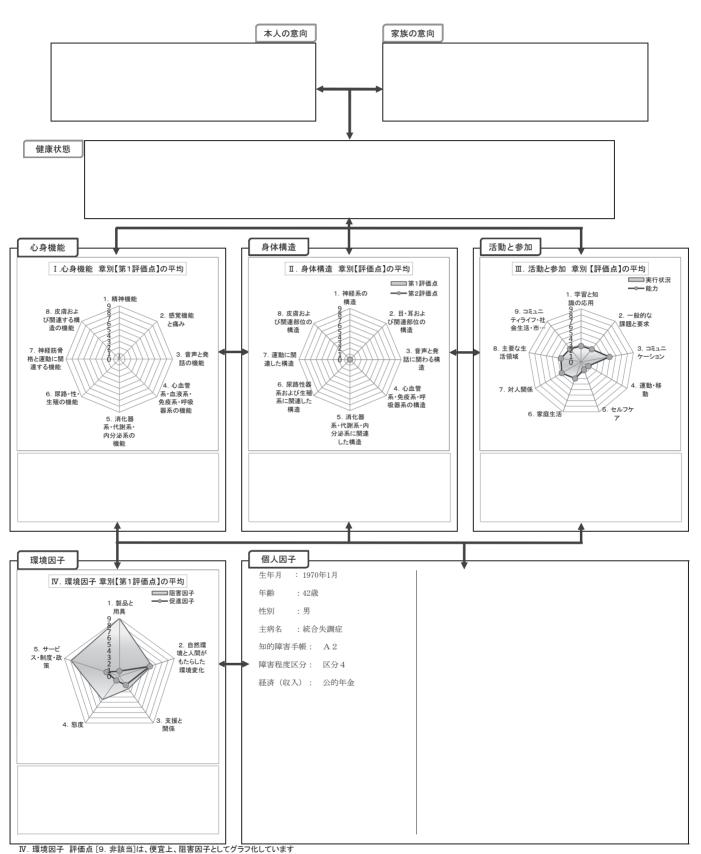


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

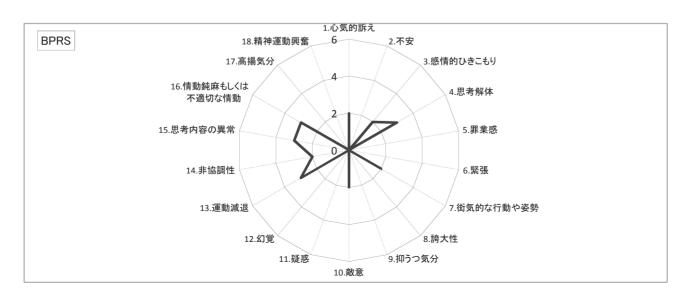
重症度を表す数字の中で患	者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
	東状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 f見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す	
	『の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづし 身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	2:軽度
	こ対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ (ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害(v。)	
4. 思考解体 思考形式の	D障害。主に観察にもとづいての評価。	4:やや高度
5. 罪業感 過去の行為	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	0:症状なし
l b both	にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における復 もとづいての評価。	1:ごく軽度
7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常	同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性 過大な自己		4:やや高度
	₹、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは い。	
10. 敵意 攻撃的行為	ける敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 急で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面 ら敵意は非協調性の項で評価する。	
	、他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含	
12. 幻覚 外界からの)刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	4:やや高度
13. 運動減退 運動および	「会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性 面接者およ	てび面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	4:やや高度
変わりな確性について 対している 対している がの部分は でのの異常でで再び でで再び る)、病的物	見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常でみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非非および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たる例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていて評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含め疾妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考内容も評価する。	指 上 4: やや高度
10. 情期純麻もしくは 欠如。無関	の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 :もどづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分 健康感の均		
l	曽大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	1:ごく軽度



日 付 平成24年12月22日 患者ID 238

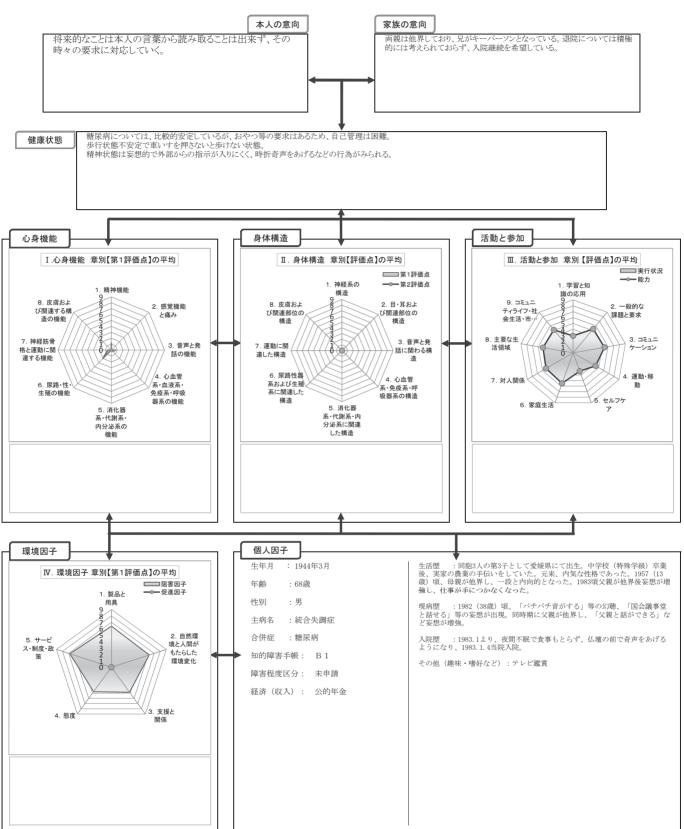


重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2:軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2:軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2:軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2:軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

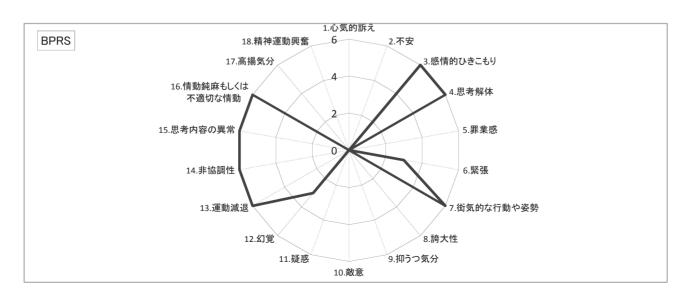


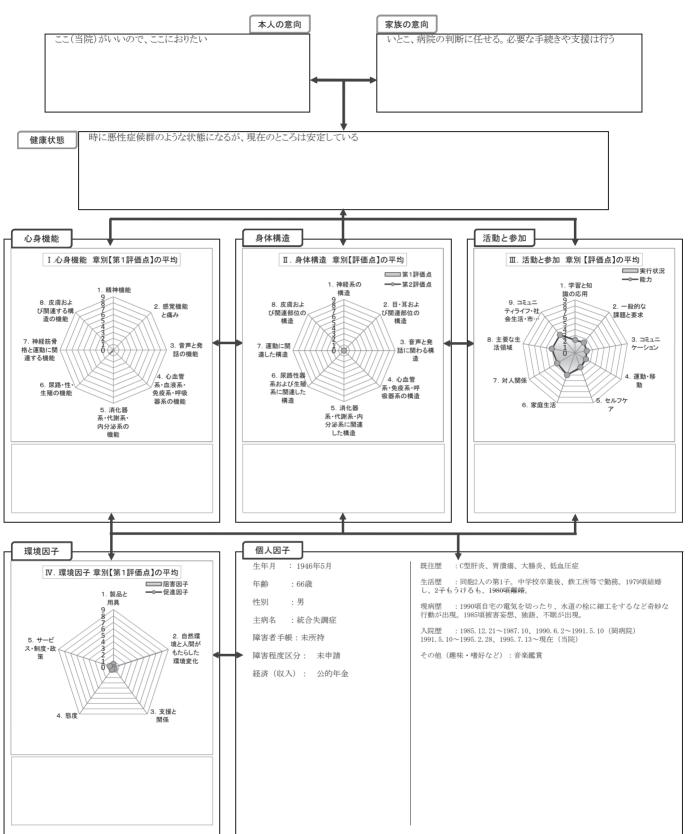
 日付
 平成25年1月7日

 患者ID
 12020010



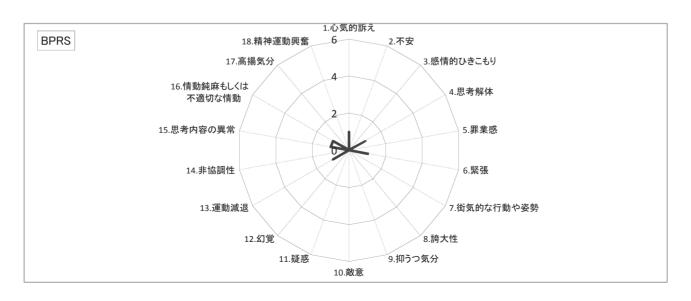
重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3:中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6:非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし



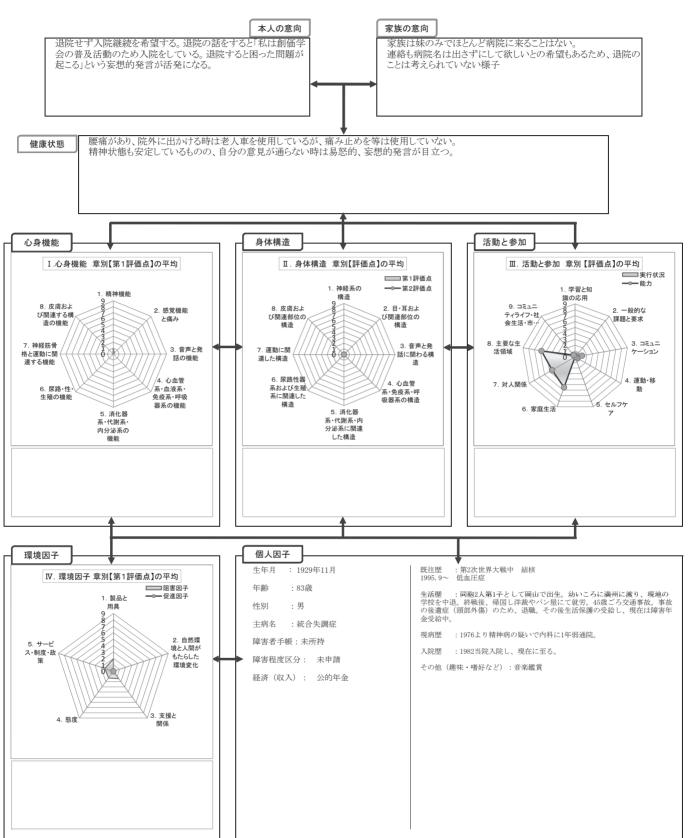


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	1:ごく軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

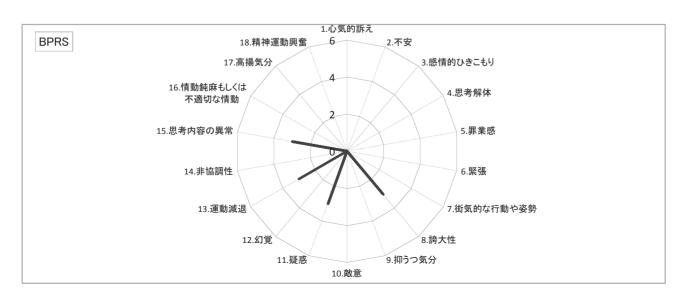


日 付 平成25年1月7日 患者ID 21138110

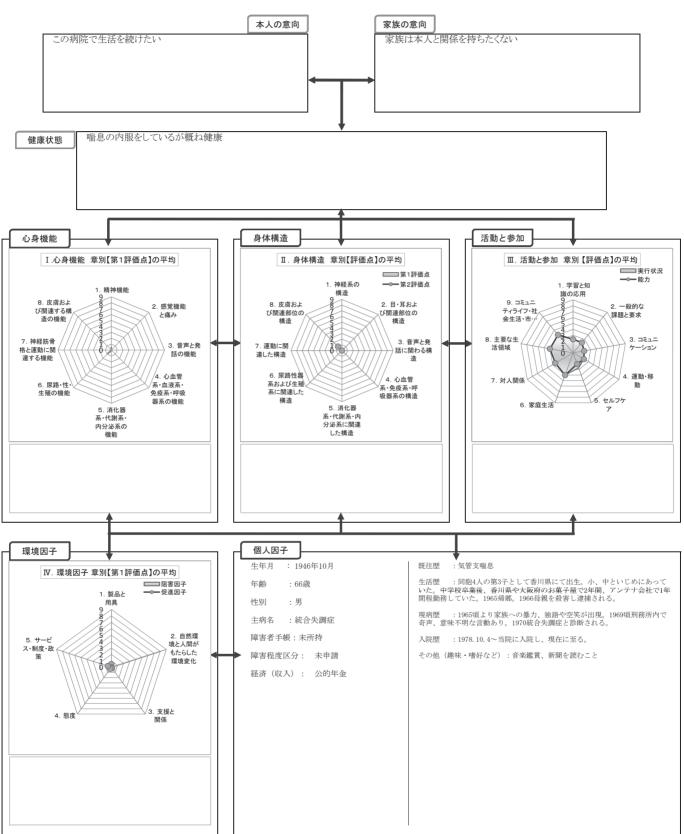


Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字	字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。	選択肢
1. 心気的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す る。	0:症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衒気的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3:中等度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	3:中等度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは 不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
 18. 精神運動興奮		0:症状なし



日 付 平成25年1月7日 患者ID 31411111



Ⅳ. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

白仕の歴史性能についての問ふの和中、白仕の歴史性能に関すて記さい相当	
身体の健康状態についての関心の程度。身体の健康状態に関する訴えに相当 1.心気的訴え する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入す 2:軽度 る。	
2. 不安 心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづい て評価し、身体的徴候」からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。) 2: 軽度	
面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ 3. 感情的ひきこもり 評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は 0:症状なし 評価しない。)	
4. 思考解体 思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。 4: やや高度	
5. 罪業感 過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。 5: 高度	
7安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴 6. 緊張 候。観察にもとづいての評価。	
7. 衒気的な行動や姿勢 風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。 1: ごく軽度	
8. 誇大性 過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。 0:症状なし	
悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検 9. 抑うつ気分 者の表情や泣く様子を考慮にいれる。しかし罪業感、運動減退、心気的訴えは考 慮にいれない。	
他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、 10. 敵意 攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接 者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	
患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の 11. 疑惑 増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含 める。	
12. 幻覚 外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。 5: 高度	
13. 運動減退 運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。 1: ごく軽度	
14. 非協調性 面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。 0:症状なし	
通常では見られない、奇妙、奇怪なしく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心気的訴え、罪責感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	
16. 情動鈍麻もしくは 感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな 欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその情況や思考内容に対して不適 切。観察にもどづく評価。 1: ごく軽度	
17. 高揚気分 健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。 0:症状なし	
18. 精神運動興奮 会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。 1: ごく軽度	

